

令和6年度 年間学習指導計画案

| | | | | | |
|-------|--|-----|------|-----------|----------|
| 科目 | 成人看護 | 単位数 | 2単位 | 学年・学科・コース | 2年・衛生看護科 |
| 使用教科書 | 看護学入門8 成人看護Ⅰ 看護学入門9 成人看護Ⅱ 看護学入門10 成人看護Ⅲ (メヂカルフレンド社) | | 副教材等 | なし | |

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | |
|---------|--|
| 学習の到達目標 | <p>看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、成人看護の実践に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・成人看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・成人看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |
|---------|--|

| 評価の観点 | | |
|---|--|---|
| a. 知識・技能 | b. 思考・判断・表現 | c. 主体的に学習に取り組む態度 |
| 対象となる年齢層が幅広く、生活形態の変化も大きい成人期の疾病予防や障害等に 応じた看護について、具体的な事例を通 して学習することによって、生活習慣や家 事、仕事、子供の育児、親の介護等が成人 期の健康に与える影響を理解し、健康の回 復や保持増進に関わる技術を身に付けて いる。 | 成人期の健康課題について具体例を取り 上げ、看護の職業倫理を踏まえ意思決定や 行動変容を支援して、望ましい生活習慣の 獲得、セルフケアを促す視点から援助を考 察するとともに、実施する援助とその根拠 を明確にして、課題を解決する力を身に付 けている。 | 成人の健康課題の解決に当たっては、仕事 や家庭、地域社会での役割と健康づくりの 両立を目指し、主体的かつ協働的に看護の 実践に取り組む態度を身に付けている。 |

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

| 月 | 学習項目 | 学習内容(ねらい) | 評価の観点 | | | 評価規準 | 評価方法 |
|-----------------------|--------------|--|-------|---|---|---|-------------------------------------|
| | | | a | b | c | | |
| 4 5 6 7 8 | 機能障害のある患者の看護 | <ul style="list-style-type: none"> ・内部環境調節機能障害 ・栄養代謝機能障害 ・内分泌機能障害 | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ・機能障害のある患者の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 ・機能障害のある患者の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・機能障害のある患者の看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | 定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト |
| 9 10 11 12 | 機能障害のある患者の看護 | <ul style="list-style-type: none"> ・脳・神経機能障害 ・排尿機能障害 ・運動機能障害 | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ・機能障害のある患者の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 ・機能障害のある患者の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・機能障害のある患者の看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | 定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト |
| 1 2 | 機能障害のある患者の看護 | <ul style="list-style-type: none"> ・身体防御機能障害 | ○ | | | <ul style="list-style-type: none"> ・機能障害のある患者の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 ・機能障害のある患者の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 ・機能障害のある患者の看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | 定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト |